

都市再生整備計画 事後評価シート
直川地区

平成24年3月

和歌山県和歌山市

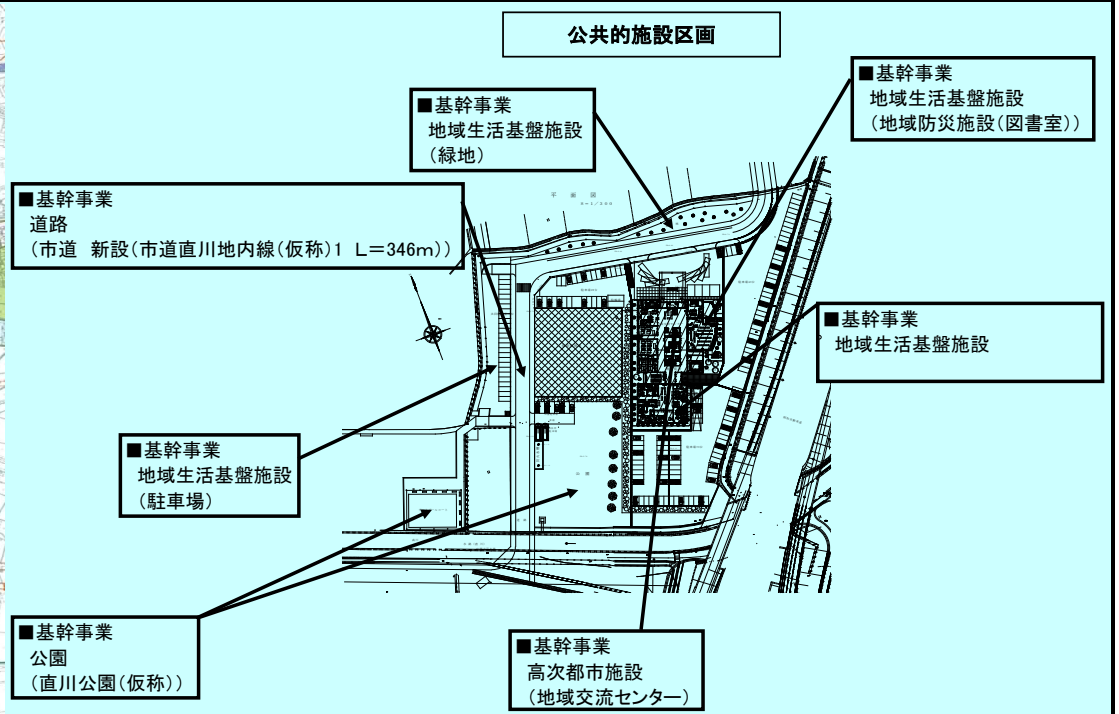
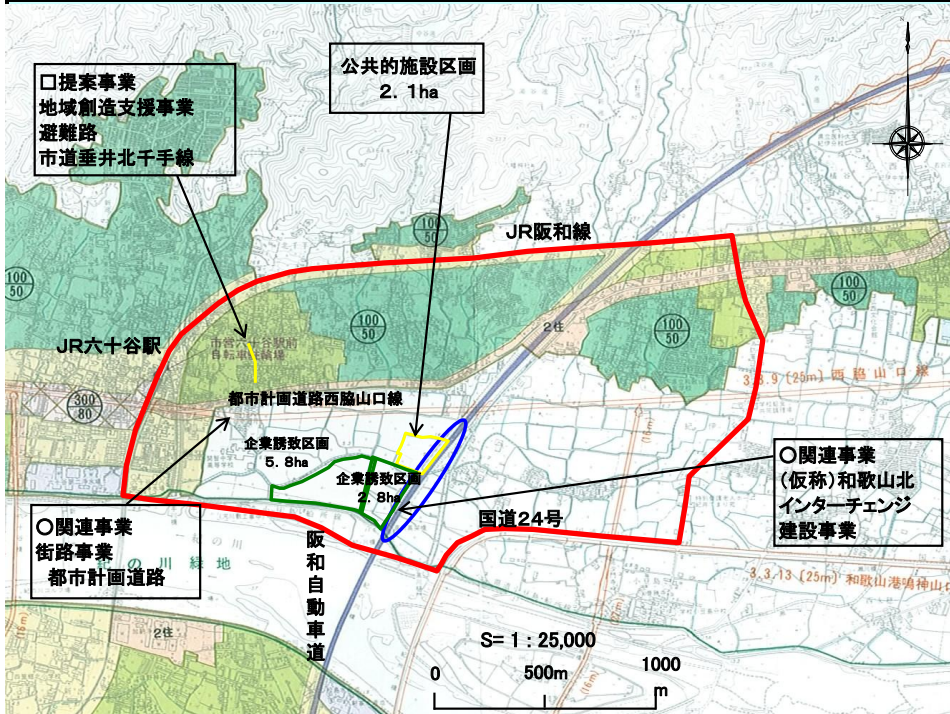
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	和歌山県		市町村名	和歌山市		地区名	直川(のうがわ)地区		面積	280 ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1,555百万円	国費率	44.20%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道 新設(市道直川地内線(仮称)1 L=346m))、公園(直川公園(仮称))、地域生活基盤施設(緑地)、地域生活基盤施設(駐車場)、地域生活基盤施設(地域防災施設(図書室))、地域生活基盤施設(地域防災施設(保健センター))、高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(避難路 市道垂井北千手線)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路事業(市道 新設(市道直川地内線(仮称)2 L=100m))		削除/追加の理由 道路事業(市道 新設(市道直川地内線(仮称)2 L=100m)):市事業で実施することになったため、削除。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 道路事業(市道 新設(市道直川地内線(仮称)2 L=100m))の整備は市事業で実施するため、目標及び指標は据え置く。					
		提案事業	地域創造支援事業(保健センター) 地域創造支援事業(避難路 市道直川39号線)		地域創造支援事業(保健センター):事業の位置付けの変更により、地域生活基盤施設(地域防災施設(保健センター))へ移行のため、削除。 地域創造支援事業(避難路 市道直川39号線):地元との協議が不十分であるため、削除。			地域創造支援事業(保健センター)は、地域生活基盤施設(地域防災施設(保健センター))にて実施し、地域創造支援事業(避難路 市道直川39号線)の削除により目標へマイナスの影響があるが、目標及び指標は据え置く。					
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(地域防災施設(図書室)) 地域生活基盤施設(地域防災施設(保健センター))		地域生活基盤施設(地域防災施設(図書室)):高次都市施設(地域交流センター)にて整備予定であった施設を防災施設として位置付け、整備することになったため、追加。 地域生活基盤施設(地域防災施設(保健センター)):地域創造支援事業(保健センター)にて整備予定であった施設を防災施設として位置付け、整備することになったため、追加。			各事業とも、当初計画から整備予定であり、計画内での事業の位置付けの変更による当該事業への追加のため、目標及び指標は据え置く。					
提案事業	-		-			-			-				
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	-		-			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	地域交流センター利用人数	人/年	5,600	H18	6,000	H23	●●●●●●●●	79.632	○	あり なし	施設が整備されたことにより、今までとは異なった新たな講座や教室が開催され、参加者の満足度が上がった。	平成24年5月
	指標2	保健センター利用者の距離の短縮による利便性向上	km	6.4	H18	2.2	H23	●●●●●●●●	2.2	○	あり なし	施設までの距離が短縮されたことにより利便性が向上し、今まで以上に気軽に相談したり、教室に参加できるようになった。	-
	指標3	当該区域内の避難場所及び医療救護所数	箇所	1	H18	3	H23	●●●●●●●●	3	○	あり なし	施設が整備されたことにより、災害時における避難所までの到達時間が短縮された。また、救護の活動エリアについて、広範囲をカバーできるようになった。	-
	指標4									あり なし			
指標5									あり なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1					●●●●●●●●							
	その他の数値指標2					●●●●●●●●							
その他の数値指標3						●●●●●●●●							
4)定性的な効果発現状況	当該計画区域内に新たに地域交流センター、保健センター、図書室、公園等を整備したことにより、地域住民の世代間交流や地域活動の促進、健康推進活動の促進が図られている。また、整備された施設は、防災機能を具備した施設であるため、地域住民の防災に関する意識が高まっている。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	当該計画で行った施設整備において、近隣住民の代表者ととみに検討・協議を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後は、完成した施設の運営等について、住民の意見等を参考にしてい				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

直川地区(和歌山県和歌山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
○「いつでも、だれでも、気軽に、安心して」利用できる交流・活動・健康拠点 目標1: 地域住民の世代間交流の促進 目標2: 地域住民の健康推進活動の促進 目標3: 災害に強い防災機能の促進	地域交流センター利用人数	単位: 人/年	5,600 H18	6,000 H23	79,632 H23
	保健センター利用者の距離の短縮による利便性向上	単位: km	6.4 H18	2.2 H23	2.2 H23
	当該区域内の避難場所及び医療救護所数	単位: 箇所	1 H18	3 H23	3 H23



まちの課題の変化
 当該計画事業の実施前は、計画区域内には、住民の地域活動、地域保健向上及び学習の拠点施設が設置されていなかったが、地域交流センター、保健センター、図書室が整備されたことにより、地域住民の世代間交流や地域活動の促進、健康推進活動の促進が図られ、道路や公園の整備を行ったことにより、今まで以上に緑豊かで快適な生活環境が享受できるようになった。
 また、地域交流センター、保健センター、公園等は、大規模災害等が発生した際の「避難場所」及び「医療救護所」として活用できるため、地域住民の生活における安心度が増加した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)
 地域活動、健康推進活動の提供や支援を行うことにより、「いつでも、だれでも、気軽に、安心して」利用できる交流・活動・健康拠点としての魅力を増大するように取り組み、地域住民の生活における満足度・安心度の増加を目指す。
 また、防災マップや施設の表示により、防災施設としての認識の浸透や防災意識の向上を図る。